

<<< JARL 信越地方本部 コンテスト委員会より >>>

今年もJA0-OSOならびにVHFコンテストにご参加いただき、ありがとうございました。委員会一同感謝申し上げます。コンテスト開催期間中および書類審査の中で感じたことを記載させていただきます。

・JA0 非常通信コンテストの規約改正について

本年度より当コンテストの規約を大幅に改正いたしました。詳細については再度規約をご覧ください。

主な改正点は以下のとおりです。

- ・開催期間を 21 日間（4/1～21）のマラソンコンテスト形式とし、交信日数をマルチとした。
- ・交信日、バンド、モードにかかわらず、1局との交信は一度のみ有効とした。
- ・レピーター、D-STAR の使用を可とした。
- ・県別の部門を無くし、1部門とした。個人局のみの参加とした。

電文に関する規約で当初「カタカナおよび数字を使用」という表現を使用しましたが、これは「必ず数字も使用しなければならない」という解釈となり、そのように電文を送受されていた局がおられました。そのため、コンテスト開催中に「カタカナ（数字を含めてもよい）を使用」旨の規約修正を行うとともに、当該規約箇所に関する部分については減点等の対象から除外いたしました。各局にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

これらの改正にもかかわらず、趣旨をご理解いただきご参加いただきました各局に感謝申し上げます。特に1位の局にあっては期間中の21日間毎日交信されるという快挙を遂げていただきました。非常通信のリアルでも想定される「長期間確実に交信を続ける」という状況を再現していただいたものと、感謝をもって受け止めております。

今回、県別部門分けを無くしたのは、本コンテストの原点である「非常時のHF帯による通信」を復活させ、管内のロケーションによる格差を無くしたいという想定でした。しかし、7MHzでの交信はわずか、3.5MHzでの交信は提出された書類上ではゼロでした。「OSOコンテストは事実上144MHzだけ」という、これまでの状況から発想の転換を行っていただきたく、ご参加各局にはぜひともお願いしたいと思います。いわゆる「集中時間帯」を利用いただき、ぜひHF帯による非常通信実験を行っててください。

レピーターを利用した通信も各地で行われたようです。普段使用していないアナログレピーターの動作、アクセス範囲をあらためて確認できた方も多かったのではないのでしょうか。またこれを機会にD-STARにチャレンジしていただくことも有意義だと思います。非常時にはどのような通信手段が使える、何が使えなくなるのか、それは実際に非常時になってみないとわかりません。まずは現状で「使える通信手段を確認」することは、非常通信訓練としての意味があるのではないのでしょうか。

この規約改正の内容が管内各局隅々まで伝わっていなかったためか、参加局数は昨年度より減少してしまいました。ただ、来年度にはぜひ本コンテストの趣旨をご理解いただき、多くの局のご参加を期待しております。特に各県支部および登録クラブ各局には、むしろ「主催者側」との意識を持っていただき、より積極的にご参加いただくようお願いいたします。規約変更が参加局増加につながっていないため、規約を以前のものに戻すべきとのご意見もいただきましたが、以上の趣旨をあらためてご理解いただくとともに、基本的な規約をこのままであと数回開催し、その結果をもって今後の規約見直しにつなげたいと考えております。

なお、本コンテストの新規約に対し「社団局の参加を認めてほしい」旨のご意見をいただいております。非常時の通信を想定し、災害対策本部等で社団局を非常通信に使用するということが考えられるため、また個人局を開局していないクラブ員の参加を想定したものとお聞きしました。今回の規約改正で社団局の参加を認めないこととしたのは、参加局減少により社団局との交信が得点に有利に働いているという現状を改善しなかったため、今後公平性を保った上での社団局参加方法を検討させていただきたいと思っております。

・今年のJA0-VHF コンテストの今後の展望について

参加局数が大きく落ち込んだ昨年と比較して、今年は例年どおりの書類提出局数となりました。多少の増減はあるものの、参加局数はここ 20 年ほど横ばい状態が続いています。しかし、各局の交信局数が少なくなっているのも事実です。コンテスト期間中のフル参加局（深夜を除く）はほとんど無く、短時間の参加が多くなっています。体力的に長時間の参加が難しくなっている？とも思いますが、いかがでしょうか？

コンテスト時間を短縮し、集中させることによって参加局どうしの交信を増やすというアイデアもいただいておりますが、コンテスト時間を短縮した分、参加局数自体も減少する（その時間に出られない局は参加できない）ということも考えられます。決して長時間のコンテストとは思いませんし、コンディションの変化などを考えても妥当と考えております。（開始を 21 時から 18 時にするというアイデアもいただいております。要検討です。）

2013 年の第 50 回記念賞として設けた「電信部門」ですが、比較的「初心者向け」と位置付けられていた JA0-VHF コンテストで電信での運用を推奨し、3 アマへのステップアップ、技術向上を積極的に行う局を表彰しようと考えたものです。電話 1 点電信 2 点では得点差が付き過ぎるとの理由で、電信電話とも点差をつけず電信での交信を優先してカウントするという規約としました。

しかし、現在では上位入賞局が交信局を増やすために電信での交信を行うようになり、また電信のみでコンテストに参加する局も増加してきたことから、正式に電信部門を独立させるべきか検討するタイミングに来ているようです。電信部門の設立は一定の成果を上げたと考えており、この趣旨にご賛同いただいた各局にはあらためて感謝申し上げます。

本コンテストにつきましても、皆さまからのご意見をお待ちしております。

・その他、全体を通じて

コンテスト参加局の「減少」については、さまざまな要因が考えられます。コンテストの規約は委員会にて常に検討と改善を重ねてきております。しかし、アマチュア局の減少、人口の減少には逆らえない部分もあります。規約の改悪？や広報不足もあるかもしれませんが、参加局を増やす（減らさない）ためには、皆さまの普段からのアクティビティー、「みんなでローカル局を1局誘えば参加局倍増」を皆さんで実践するのが一番効果的なのではないでしょうか。

JARL ではこの6月から「JARL100周年記念アクティビティコンテスト」を開催しています。これはJARL、地方本部、支部で主催するコンテスト（条件を満たすもの）に積極的に参加することで得点を競うものです。JA0-VHF コンテスト（来年開催）も対象となります。これを機会に多くの皆さんがコンテストに興味を持っていただき「空をにぎやかにする」ことにご協力くださるようお願いいたします。
https://www.jarl.org/Japanese/1_Tanoshimo/1-1_Contest/activity.html

・過去の「コンテスト委員会より」もご覧ください。

JARL 信越地方本部コンテスト委員会のサイトの「過去のコンテスト結果」内に掲載してあります。皆様からの御意見に対する回答が書かれている場合があります。内容の基本的な考え方に大きな変更はありません。

以上です。コンテスト委員会では、私たちとともにコンテスト運営にご協力していただける委員を引き続き募集しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

2026年 7月 9日

文責：JR0BAQ／西山 浩平（JARL 信越地方本部コンテスト委員長）